

南房総の美 ギャラリーに



ギャラリーに展示した溝口さんの作品を紹介する長女の佐生かおりさん（館山市船形で）

館山の石造倉庫 改装

南房総の自然を描き続け、2019年に83歳で亡くなった洋画家の溝口七生さん（かずお）が娘3人の手で館山市船形に整備され、9日にオープニングする。房州石の石造倉庫を改装し、誰もが立ち寄れるようになるため、カフェも併設した。長女の佐生かおりさん（57）は「ギャラリーは父の夢。多くの人に作品を見てもらいたい」と話している。（当間敏雄）

3姉妹父の夢実現

口さんは生前、自宅敷地にギャラリーを開こうとしたが、妻の和さん（85）に「誰が管理するの」と言われ、断念したという。

夢が実現へと動き出したのは20年夏。館山市の船形漁港近くにある築99年の古い倉庫が売りに出されていることを、かおりさんが知ったのがきっかけだ。房州石を積み上げた倉庫だった。房州石の产地、鋸山のふもとに家族で住んでいた幼い頃を思い出した。

溝口さんは東京学芸大学卒業後、教諭として旧大田区立岩井養護学園（南房総市）に赴任。地域で児童教育に携わる傍ら、南房総の自然に魅せられ、その風景を油彩画に描き続けた。静かな内房、男性的な外房、波や岩、貝殻、廃船、樹木……。明るい陽光と海風、その風景たちとの対話をキャンバスにとらえた作品は、県展などで高く評価され、館山市図書館や県立美術館にも収蔵されている。

かおりさんによると、溝口さんは「ロコナ禍で帰省が2人は」「かなわなかつたため、ビデオ会議システムなどを活用して、アイデアを出し合つた。中小企業診断士の資格

ツタが生い茂った倉庫は趣があり、房州石に「縁」を感じた。「父の絵を展示するギャラリーにできたという遠隔地に住む妹2人も「一緒にやろう」と力を貸してくれることになつた。

保管している約300点

から17点を厳選し、時間を重ねた房州石を背景に展示すると、再び命が吹込まれたように浮き立つた。和さんは「お父さん見せたかったね」。かおりさんは「父の絵を通して、いろんな人と交流する場にできれば」と話している。

施設名はギャラリー＆カフェ「船形倉庫」。金曜日（日曜日の3日間午前10時から午後5時30分まで）が営業時間。入場無料。